■■■　留学生等ボランティア事業の実施　■■■

「コロナ禍」と呼ばれる状況下において、留学生もアルバイト先を失ったり家族からの仕送りがなくなったりと経済的な困難に直面しています。そのような状況を受けて、ＫＦＣは神戸市及び神戸国際協力交流センター(KIC)からの受託事業として、6月から8月にかけて有償ボランティア事業を展開しました。市街地の公園や商店街の清掃活動、外国人の視点によるハイキングコースのサインチェックなどを行ってもらい、謝金を支払うという仕組みです。当初の参加想定100名を大幅に上回り、日本語学校の学生、大学生、大学院生、卒業後に帰国できなくなった人、或いは難民申請中の方なども含めて計208名23か国・地域からの参加申し込みがあり、3か月間でのべ約2,600名も参加する特大事業となりました。

参加者は「BE KOBE」とロゴの入った青いユニフォームを着て、法人本部がある新長田や三ノ宮、ポートアイランド周辺の公園清掃のほか、近隣諸団体と協力して各商店街の清掃活動やふたば学舎の消毒・清掃作業を行いました。清掃活動ではただゴミを拾うだけではなく、地元の方が普段はできないガム取り作業や側溝の泥撤去を行い、街行く人や地元の関係者から感謝の声も多く聞かれるなど、留学生支援という側面だけでなく地域貢献も行うことができました。参加者も地域とのつながりを感じることができたと思います。また7月中旬からは要望を受けて元町商店街での清掃活動を別途毎日行ったほか、摩耶山ハイキングコースの清掃活動、西区の公園の竹刈り・整備活動など実に多様な活動を実施しました。

事業に参加した学生の中には活動後に「母国へ帰る飛行機のチケットが買えた」とお礼の連絡をしてきてくれる人もおり、事業が一定の役割を果たしていることを感じられる場面もありました。一方で神戸の現状は、いまだ新型コロナウイルス禍が収束の兆しを見せず、新たなアルバイト先を見つけられないなど引き続き困窮状態にある人も多くいます。本当に困っている人は何度も活動のシフトに入れてほしいと強く要望されますし、事業終盤にさしかかっても新規申し込みが来るなど、必要性の高さをひしひしと感じています。参加者の話を聞いていると、例えば結婚式の宴会やイベント関係、英会話教師など対面のアルバイトをしていた人は、仕事になかなか復帰できないようです。また普段は英語で学んでいる大学院生や、来日したばかりで日本語があまりできない日本語学校の学生などは、他のアルバイトを見つけるのが特に難しそうです。

そういった状況を踏まえ、9月以降も支援を必要とする人については引き続き支援できるよう、事業内容・仕組みを改編して再スタートします。今後は清掃活動だけでなく、言語力など得意なことを活かしてＫＦＣやふたば国際プラザが実施する外国人支援及び多文化共生を推進するための各事業にも参加してもらう予定です。留学生を支援しつつ、特性や能力を活かして活躍頂く機会となればと考えています。最後に、この3か月は相当な数の留学生等と一緒に活動できたおかげで多くのことを学びました。多様な出身国・地域、学歴・経歴の人がおり、熱心に仕事ができる人、コミュニケーションが上手な人からそうでもない人まで、あらゆる個性をもつ人々と出会いました。彼らと日程を調整したり、指示を出したり、人によっては時には(しょっちゅう？)遅刻・欠席・活動態度を注意したりするうちに、有効な連絡の仕方や指示の出し方など実に多くのことを学びました。この経験や得たネットワークを今後も活かして参ります。　（大石 貴之）

◆ボランティア活動に参加して

留学生としてベトナムから来たニューと申します。よろしくお願いします。

現在は大学4年生で、6月からコロナウィルスでアルバイトを減らされてしまい、経済的に苦しく

なってしまいました。ネットでＫＦＣが行っていた留学生を対象にしたボランティア活動を見えて、参加しました。このボランティア活動のおかげで、生活費をちょっと負担してもらったし、新しい友達もたくさんできました。
ボランティア活動と一口に言っても何をするのかなと最初思いました。実際は街や河原、海岸、公園などを清掃、ゴミ拾う活動です。夏は野外での活動は大変だと思いましたが、清掃する前にミネラルウォーターもいただき、地元の方々に笑顔で感謝して頂き、参加してよかったと思いました。そして、人との交流ができるというのもボランティア活動の良い点だなと思いました。また、活動が終わってから、支援金だけではなく、食材や日常用品までももいただき、やさしいなと感動しました。
留学生のみんなの笑顔、支えてくれた道の人の言葉、公園での蝉の声、すべてこの思い出が、人生の中で忘れられない夏ができました。今回ボランティアに参加したことは、いい経験になり、またいい思い出にもなったと思います。 このボランティアは参加した人にしか分からない貴重な事だと思います。　　（ドーレ イエン ニュー）

新型コロナウイルスが流行している現在、神戸市の留学生ボランティア活動に参加しました。この活動はコロナで困っている留学生たちに神戸市内の公園や商店街を掃除してもらい支援する活動でした。時間帯は昼間のちょうど暑い時でしたが、長い間、掃除していなかった公園の椅子を拭いたり、地面を洗ったりして、汗をかきながらごみ収集に専念しました。掃除の時には、多くの町の人々からオレンジやお水など温かいご厚意を頂きました。さらに一緒に掃除してくれる熱心な人々もいまして、非常に嬉しかったです。これからもこうした有意義なボランティア活動に積極的に参加したいです。
（コーディネーターアシスタント　永 良）

■■■ ハナの会■■■

◆１０１歳のお祝い

長寿社会となった日本ですが、１０１歳を迎えるということは非常に貴重なことであり、おめでたいことです。ただ、身近な人が１０１歳を迎えた時にどうお祝いしたらよいのか迷われる方は少なくありません。せっかく人生の大きな節目をお祝いするので、１０１歳を迎えるご本人や参加する人のみんなの心に残るお祝いにしたいですね。
今年は、１０１歳を迎えた利用者が二人いました。私たちは１００歳を過ぎてから、ご本人にとっての一年をどのように過ごしたのかを思い返します。ここ、ハナの会に来ているご本人を愛し、世話をし、ニーズを認識している私たちスタッフは、デイサービスで一緒に過ごしながら、この一年のご本人の存在の大きさを感じました。またこのことは、ご本人にとっても喜びだと思います。
１０１歳は、多くの年を重ねていると言えます。そして、ご本人は、周囲からの多くの尊敬、愛、忍耐を必要としていると思います。
人生を生き抜いてきたご本人は、私たちと一緒にあらゆる瞬間を過ごす方法を知っていて、私たちよりも人生についての多くの知識を持っています。
ご本人たちは、いつも私たちに「ありがとう、ありがとう」と声をかけてくれます。
こんな声掛けをしてくれると、私たちがハナの会で一年前に１００歳をお祝いしたことと、この一年のかけがえのない色々なシーンを改めて思い出し、私たちスタッフの心は満たされます。そ

して、おそらくご本人たちもまたデイサービスで楽しい時間をお過ごしになり、喜んでいるのだと思います。　　（塚本 澄子）

■■■ＫＦＣ日本語プロジェクト■■■
◆水曜日クラスで遠足

1月25日（土）ポスター発表でウ バンニンさんはＫＦＣ学習者の一員として自分の学習方法を発表してくれました。その原稿を下記に載せます。

皆さんこんにちは。これから私の日本語学習について発表させていただきます。よろしくお願いします。
私はニンと申します。ベトナムから来ました。自分のスキルアップのため、去年の５月に日本の会社で働くために日本へきました。日本へ来る前にベトナムで１年半位日本語を勉強していました。ベトナムでは最初に会社の日本語トレーニングコースに参加しましたがあとはほとんど独学でした。日本に来て会社生活では日本語のコミュニケーションは時々ありますが仕事の話だけです、もっとコミュニケーションをとりたくて日本語学校に行くと決めました。昼間は仕事ですので夜学校へ参加しました。それはＫＦＣセンターです。最初は自分の日本語はまだ下手ですから他の高いレベルの方と一緒に勉強するのは大丈夫かなと心配していたんですが、学校の勉強式はマンツーマンですのでほんとによかったです。マンツーマンですから自分のレベルと自分の勉強方法に自由に合わせていけますし、そして会話の機会も増えます。例えば私は普段とちょっとちがいますが映画とか新聞などで日本語を勉強するのが好きです。それで映画を見る時何か知らないところがあればノートしてクラスで先生に聞いたり、先生も短く面白い新聞を準備してくれて難しい漢字は読めるように頭にはひらがなをつけておいてくれて、私は新聞を読んで先生と内容を理解します。伝統的な学習方法と違い新聞とか映画は面白いですから勉強意欲がなくならないのでいつも学校へ行きたいと思います。そして、日本語を勉強するだけではなく、学校には日本の文化とか料理の作り方も先生たちが教えてくれて嬉しいです。私の今年の目標は日本語の映画を字幕なしで理解できるように頑張っていきます。以上です、ご清聴ありがとうございます。

◆木曜日AMクラス ミニスピーチ

　木曜日クラスは、学習者にミニスピーチをしてもらっています。9月3日は中国出身の張雪梅さんが、夏休みに行った「気まぐれ旅行」についてスピーチしました。以下原稿の抜粋です。
「皆さん、気まぐれ旅行をしたことがありますか？･･･中略･･･14日の夜中1時に14人一緒に車で富士山に向けて出発しました。五合目に行きたかったですが私たちの車は入れませんでした。コロナの影響で観光バスだけが入れるとのことです。･･･中略･･･ほったらかし温泉に行きました。温泉に入りながら富士山を見ることができます。最初は曇っていて富士山が見えませんでしたが、雲が晴れてはっきり見えました。こんなに近くで見るのは初めてで、とても大きくてきれいでした。それから桃狩りに行きました。･･･中略･･･友だちの娘さんが塾に行くので急いで帰りました。車の中で寝たり食事をしたり話したり、車内は楽しい音が絶えず響いていました。日帰りで大変でしたが楽しかったです。皆さんも私たちと一緒に旅行に行きませんか。」

■■■ＫＦＣ外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■
◆外国にルーツを持つ子どもたちと特別支援学級

なかよし学級に入らないと中学校にも行けない？
在日１年目小学校１年時点で、算数の学習についていけないといわれ、日本語も生活言語中心だったＡさん。母親は、母国では女性は４年生までしか学校に行かないことや戦乱で勉強どころではなかったことを話し、これまで自力で英語の学習をしてきていました。子どもと一緒に、日本語学習にも熱心に取り組み、子どもの算数、国語を一緒に学習したりしてきました。小学校入学後は、Ａさんは何度もなかよし学級を勧められました。この時に、通訳の方の理解も足りなかったこともあり、「このままでは中学校には行けない、上の学年には進級できない」といった説明がありました。両親から私たちに相談があり、学校と話し合い、一緒になかよし学級にも見学に行きました。両親に日本の教育制度も説明しました。国によっては「障がいがある」「障がい者」というのは、受け入れられないという考えも根強くあります。また、日本でも将来の就職などにも影響のあることも考えられます。少しずつ「障がい者雇用」といった枠も広がりつつありますが、療育手帳や障がい者手帳を取ることのメリット（所得税住民税などの控除、交通料金などの割引、障がい児デイサービスの利用等）、デメリット（自分が障がい者であるということを認め、障がいと共に生きる意識がいる、学習意欲が低下しがちなので、普通学級・通常の教科学習、受験など要求していかないと外れてしまう等）も考えざるをえません。私たちも今の時点で判定はできない、可能性を広げたいと考え、なかよし学級入級に納得できないという両親と一緒に学校と話し合い、小学校は普通学級に行くこと、ただ、６年生時点でこうべ学びの支援センターで発達検査を受けることを決めました。検査の結果は、聞かれていることが理解できない、ということで、厳しいものだったようです。ただ、親子の努力で、かけ算やたし算ひき算、漢字などは覚えてきました。
中学校でも社会の地理や技術家庭、英語などは興味を持ち熱心に学習しました。ただ、３か月ほど帰国したあと、日本へ帰ってくると、学校の学習にはついていけないということで、学校側からの１対１で個別に学習をみるという説明があり、なかよし学級に通級しました。再度こうべ学びの支援センターで発達検査を受け、２年生からなかよし学級に入り、数学、理科などの学習は別になり、試験も免除という形になりました。母親が英語と日本語で話ができるということで、通訳による説明はなかったようです。
　Ａさんには日本語学習や教科学習を週２回支援してきました。抽象的な思考を伴う話は難しく、家族の中でもあまり話されていないようでした。母語教育が必要と、最近言葉の学習に行き始めましたが、家族で抽象的な概念が共有されるための言葉が難しいと思いました。今、Ａさんは、学校で説明された言葉やプリントに書かれた言葉、教科書にある言葉、ニュースの内容など私たちに一つ一つ説明を求めるようになっています。最終的には何語で考えていくのか、気になります。
　また、Ａさんの場合も、他の外国人の場合も、保護者への説明がうまくできていません。学校には、せめてひらがなをつけてほしい、あるいは英語で書いてほしい、用意するものなど絵を入れてほしいなどお願いしますが、忙しすぎる現場ではなかなか対応できないようです。また、子どもの状況については、本当は「専門的な通訳」が必要です。横浜市の場合、通常の通訳と、学校での懇談などの場合の専門的な通訳に分けているようですが、このような考え方が必要です。
　2019年8月31日の毎日新聞に「文部科学省への情報公開請求などで判明した」ということで、「外国人が多く住む２５市町の公立小中学校に通う外国籍の子どもの５．３７％が知的障害のある子どもらが学ぶ特別支援学級に在籍していた」という記事が載りました。２５市町の全児童生

徒の在籍率の2倍超になっています。これは2018年の朝日新聞にもあり、調査は2017年2月に文科省が、外国人住民の多い自治体でつくる「外国人集住都市会議」に参加する２５市町を対象に実施したというものでした。神戸市は加盟していませんが、神戸にも関係することも多いのでは、と感じました。専門家の声として「日本語が理解できないため知能指数（ＩＱ）検査の結果が低く、知的障害などと判断された可能性がある」というコメントがあげられていました。ようやく「日本語教育の推進に関する法律」が公布、施行され、外国籍生徒や留学生、就労者に対し、日本語教育を受ける機会を最大限確保することを基本理念としています。言葉の面での障害をなくす取り組みが広がってほしいです。

特別支援の必要な子どもたちが見過ごされたり、言葉や文化、環境への支援の必要な子どもを特別支援学級に入れてしまったり、といったことが起こるのは子どもの成長をはばむことです。外国にルーツを持つ子どもたちがいる社会は当然ですから、どのような状況が考えられるか、子どもの周りで起こっていることや子ども自身が抱えている問題に学校教員が配慮できるように、研修や相談窓口、地域との連携も必要です。また、その子たちや保護者が理解しやすいように、言葉や環境の改善、学習の機会、専門的な通訳の配置など、制度としてももっと整備してほしいと思います。(はいずコーディネーター 小城 智子)

◆インターネット安全講習

対象とした「しんさくら教室」で、インターネット安全講習を開催しました。講師は、兵庫県立大学ソーシャルメディア研究会の立石志穂さんと渡辺鈴さんで、企業と一緒に開発した動画などを使用して、小学校などで出前授業をされています。保護者にも子どもが学校などでスマホの使い方について伝えられている情報を知ってもらい、スマホの使い方を家族で考えてもらおうと企画しました。

無料と思って始めたゲームで色々アイテムが欲しくなり何十万円も課金されるケース、歩きながらスマホを使用して事故に遭うケースなどの動画による事例紹介がありました。最後に、ルールを決めて遊ぶ、スマホにはまりすぎない、ながらスマホをしない、という３つのことを覚えて帰ってもらいました。高学年の子どもには、知らない相手に自分の写真を簡単に送ってしまい巻き込まれるトラブルについても動画を見て、考えてもらいました。

保護者からは、「食べながらスマホを見ている」「パスワードをかけているから、子どもが勝手に触って課金されないようにはしている」「携帯ばかり触っているし、危険なことに遭わないか心配だから、この機会にしっかり考えてしてほしい」という声がありました。

しんさくら教室の中ではまだ1人の小学生だけしか携帯を持っていませんが、今後ほかの子どもたちもスマホを持つようになった時に、家族でしっかり話し合ってルールを決めて使用してくれるようになればと思います。　(志岐 良子)

■■■グループホーム ハナ　小規模多機能型居宅介護 ハナ■■■

◆2階 焼肉パーティ

新型コロナウイルスが世界的に猛威をふるっていますが、幸い、今のところ利用者様、スタッフに感染者は出ていません。

しかし、今年度計画していたお花見や遠足、夏まつりといった行事は中止せざるを得ない状況となりました。ご家族様との面会もできず、利用者様もどこか元気がなくなってしまったように思います。

そこで二階フロアでは焼肉パーティーを計画しました。数日前から利用者様に声をかけ、エビ

やウインナーなど食べたい物のリクエストを聞き、用意をしました。
　当日はホットプレートを二台用意して、ノンアルコールビールやりんごジュースなどいつもと違う飲み物も揃えました。
　焼肉パーティーが始まるとみなさん一気にお肉に手があがりました。一番初めになくなったのは、もちろんお肉でした。他にも野菜やごはん、リクエストのあったエビやウインナーも完食です。普段あまり食の進まない利用者様も驚くほどパクパクと召し上がられていました。やはりみなさんお肉が大好きです。「おいしかった。ありがとう」「また次はいつする？」と早くも次の予約が入りました。
なかなか外に出られずリフレッシュもできない毎日が続いてしまっています。そんな中でも少しでも楽しいひとときが過ごせればとこれからもスタッフみんなで考えていきたいと思います。
（中井　伸枝）

■■■ 今後の予定■■■

■ふたば国際プラザ
ヒューマン・シネマ上映会
第12回　9月18日（金）18：00～（113分）「あん(2015日本映画)」
外国にルーツをもつ子ども対象の英会話レッスン9月19日(土)～毎週土曜日
■オンライン講座
「多文化共生」を考える研修会2020
第1回 10月29日(木)【総論】
第2回 11月1日(日)【外国にルーツを持つ子どもの教育】
第3回 11月5日(木)【地域における多文化共生の取り組み】
第4回 11月8日(日)【難民・移民支援の現状】